

<山形聾学校の実践について>

レポートタイトル「木材加工技術を生かした社会に役立つ製品作り」

1 実践にあたって

本校高等部普通科は、Ⅰ類型（進学コース）とⅡ類型（就職コース）の教育課程を設けている。Ⅱ類型の選択教科の中に商業系4単位と工業系4単位の教科がある。本報告は工業系の実習で行っている木材加工の実践である。学校生活で役立つ木製品作りを通して、学校生活が便利になったり、人から喜ばれたりする経験から、学ぶこと・働くことの意義や役割を学ばせたいと考えた。

2 活動より

(1) 進路資料展示棚の製作

高等部用の進路関係の資料がたくさん廊下に置かれている。これまで、本立てに立てて利用していたが、右図の展示棚を製作したことで、必要な資料を一目で見つけることができるようになった。



進路資料展示棚

(2) 除菌液置きテーブルの製作

生徒が昇降口の除菌液が置いてある古い机を見て、実習で使いやすいテーブルを設計したいと申し出た。右図のようなスマートなテーブルを製作して設置した。玄関が明るくなったと喜ばれている。後輩もそのテーブルを参考にして、職員玄関用のテーブルを製作中である。



除菌液置きテーブル



製作中のテーブル

3 まとめ

この実践は、必要感や目的意識が明確であり見通しがもてる活動である。また、学習の成果に対して多くの人から感謝されることから生徒の達成感が高い。今、学んでいる技術や知識が生活に生かされ、自分の存在価値を見出せる経験は、学ぶこと・働くことの意義や社会貢献についての理解を深めることができた。

<山形盲学校の実践について>

レポートタイトル「ICTを活用した基礎実習（指圧）の取組みーバランス Wii ボードを活用した指圧の評価ー」

1 実践にあたって

指圧の技術には「漸増・持続・漸減」という基本原則がある。これは、徐々に圧力を加え、一定圧を持続し、徐々に圧力を抜くことを示している。初学者の場合、加圧や減圧が速くなってしまう、持続圧が一定にならない、左右の圧力差が大きいなどの不具合が認められる。従来は、教員が口頭で、又は再現して指導していたが、これらは教員の主観や技能を介した情報であり、生徒の指圧そのものを示したものではなかった。

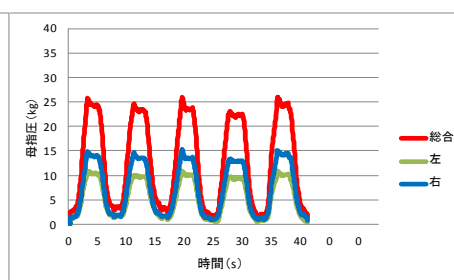
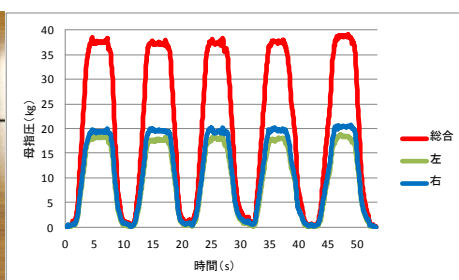
2 活動より

先行研究を参考に、バランス Wii ボードを活用して指圧の圧力変化をデータで取得し、グラフ化することで生徒の指圧の状態を示した。これによって生徒は、今まで見ることでできなかった指圧の漸増・持続・漸減や左右の圧力差等を視覚的に捉えることができた。また、ゲーム感覚で活動に取り組み、即時的・客観的にフィードバックすることができたため、受講していない生徒からもデータを取って指導して欲しいという要望が出てきた。この様に生徒達の関心・意欲が高まり、指圧技術の改善に主体的に取り組む姿勢を育むことができた。 ※以下は活動結果の一例

PC とバランス Wii ボード

理想に近い圧曲線

改善の多い圧曲線



3 まとめ

本教材は、定期的に活用することで指圧の技術力向上を測る目安になると考えられる。本年度は対象生徒に盲の生徒がいなかったため、取得したデータをグラフ化し、生徒の視機能に応じて拡大や配色を調整してフィードバックを行った。今後、盲の生徒に対しては立体コピーを用いるなどして情報保障を行いたい。